

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 29 年度】

[事後評価]

No.	研究課題名 ----- 主担当部署 ----- 研究期間	研究の概要 研究の成果	評価結果及び委員コメント	提案機関へのアドバイス
2	<p>意匠性を付与した炭素繊維複合糸織物の開発</p> <p>-----</p> <p>繊維工業技術支援センター</p> <p>-----</p> <p>平成 28 年度 (1 年間)</p>	<p>炭素繊維からなる織物および成形材料は黒一色である。そこで、意匠性付与として、炭素繊維複合糸およびそれから構成される織物に関して、複合糸の構成および織物規格等を新たに規格および試作することでデザイン性を付与した新たな炭素繊維複合織物と成形材料を開発する。</p> <p>具体的には、ミシンで炭素繊維に先染糸を巻き縫いした複合糸の作製を試みる。また、複合糸から織物を試作する際、染色した複合糸と交織することで、ストライプやチェック柄など意匠性付与した織物を開発する。また、作製した織物の意匠性を保持した成形材料を開発し、特性評価することで介護福祉分野や家具類に利用可能な材料開発を目指す。</p> <p>成果としては、意匠性付与した炭素繊維複合糸および織物を作製することができた。作製した織物を積層し、成形したところ、従来にない意匠性付与した炭素繊維強化複合材料を開発することができた。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地企業と共同で多くの特許を出願しており、目標達成は高い。コスト的にも優位である。 研究成果が新産業の開発につながることに期待したい。 特許の取得も多く、技術的には優れている。 独創性の高い複合材料の製造法として評価できる。 デザイン性もあり有用性が高い。 本来の目的目標以外にも技術の利用、製品化を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> この材料を使うことによって、初めて可能になる製品をアピールする必要がある。マーケットのニーズの把握が必要である。 最終的なマーケットをしっかりと把握して県産の特色ある製品に育てていただきたい。 材料組織と材料強度との関係を、今後より詳細に検討する必要がある。 意匠性を持つ意味がある用途はをトイジしていく必要がある。 ニーズに合わせた技術開発が進むことを期待します。

3	<p>県産酵母から尿素非生産性株の育種</p>	<p>現在酒類業界は、政府のクールジャパン推進により清酒の輸出促進への取り組みを強化しているところである。しかし、一般に酒類には、酵母由来物質である尿素から生成されるカルバミン酸エチルという「おそらく発がん性がある」とされる物質が含まれていることがある。食の安全性の視点から国内外で関心もたれており、海外ではカナダをはじめ規制値を設けている国がある。現在日本国内では規制はされていないが、今後輸出も視野にいれた製品開発を行うことを考えると、カルバミン酸エチル生成の原因となる尿素を生産しない酵母を利用することが望ましい。</p> <p>そこで、本研究では、H25年に取得した初の県産酵母から自然変異により、カルバミン酸エチル生成の原因となる尿素を生産しない「尿素非生産性株」を取得することを目的とする。</p> <p>成果としては、県産酵母の尿素非生産性株を取得でき、当初の目的を達成できた。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿素非生産性の育種に成功した。開発は順調に進んでいるように思われる。今後の展開が少し見えにくい。 ・着実に研究成果を上げておられると判断した。 ・兵庫県の特産物として重要な研究と認められる。 ・地道な研究と努力の成果と言える。 ・輸出という目標を目指した研究テーマであり、その目標を達成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり美味しくないということなので、味の改良が必要だと思います。独特の味をブランド化できないでしょうか。 ・研究成果が県下酒造メーカーに広く活用されるように。 ・是非とも県産の特色あるお酒として育てていただきたい。 ・本研究成果は広く広報する価値があるので。
	<p>材料・分析技術部</p>			
	<p>平成 28 年度 (1 年間)</p>			